令和6年度事業報告書

ともえ学園

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を行いながら、質の高いサービスの提供を行えるよう多方面にわたるさまざまな取り組みを行った。

破壊や老朽化した箇所修理、交換等を随時行った。

各部署、各係の取り組みについても基本理念、重点事項を踏まえ、次のとおり令和6年度事業を実施した。

事業

①施設入所支援事業	定員70名	内訳	男性66名	女性4名
②生活介護事業	定員70名	内訳	男性66名	女性4名
③短期入所事業	定員2名			
④日中一時支援事業	定員若干名			

基本理念

ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の尊厳にふさわしい施設支援を保障し、必要なサービスを提供する。

- ①利用者の人格、生活史そして要求を尊重し、施設入居によって本人の尊厳や利益が損なわれないよう、相手の立場をよく理解する。
- ②利用者には、社会生活上の知識や文化的な刺激を受けられるよう積極的な生活の援助を怠らない。
- ③利用者の人格や行動を情緒豊かに受け止め、共感し、共に向上できる職員となる。

重点事項

- ①利用者中心の質の高いサービスを提供する個別支援計画の作成とモニタリング
個別支援会議の充実、ご家族の参加
- ②高齢化への対応と機能低下の防止、感染症予防対策
- ③強度行動障害への取り組み、強度行動障害支援者養成研修受講
- ④日中活動の充実、活動係の拡充と専従
- ⑤虐待防止に対する取り組み
- ⑥職員研修、人材育成の取り組み
- ⑦職員の健康推進、ストレスチェック、各種依存症のチェック
- ⑧建物設備、備品の保守管理、営繕、更新 壁の修繕、厨房機器保守管理
- ⑨安全と日常の危機管理
あらゆる危機、危険を想定した環境と防災設備の整備と訓練。
労働災害を発生させないための研修と適切な作業着、作業用品の提供
- ⑩広報活動
ホームページ、フェイスブック、ブログ等を活用したタイムリーな情報の提供

1 利用者の状況

①年間の入退所者状況

定員70名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月初在園数	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
入所	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
月末在園数	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70

②短期入所事業受入状況

定員2名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	2	2	2	2	2	4	4	3	3	4	3	3	34
受入回数	2	5	2	4	4	5	6	5	7	5	8	7	60
受入延日数	34	37	38	44	43	53	31	20	28	29	27	48	432

③日中一時支援事業受入状況

定員 若干名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
受入回数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
受入延日数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

④在所者状況（令和7年3月31日現在）

年齢	男	女	計
18～20歳未満	0	0	0
20～25歳未満	1	1	2
25～30歳未満	0	0	0
30～35歳未満	5	1	6
35～40歳未満	4	0	4
40～45歳未満	3	0	3
45～50歳未満	9	0	9
50～55歳未満	19	0	19
55～60歳未満	13	1	14
60～65歳未満	8	1	9
65～70歳未満	4	0	4
計	66	4	70

在園年数	男	女	計
0～1年未満	1	0	1
1～5年未満	5	1	6
5～10年未満	2	1	3
10～15年未満	4	0	4
15～20年未満	5	0	5
20～30年未満	6	0	6
25～30年未満	25	1	26
30～35年未満	5	0	5
35～40年未満	13	1	14
計	66	4	70

障害支援区分	男	女	計
6	28	1	29
5	30	3	33
4	8	0	8
3	0	0	0
計	66	4	70

出身市区町	広島市中区	広島市東区	広島市南区	広島市佐伯区	広島市安佐北区	広島市安佐南区	広島市安芸区	大竹市	呉市	福山市	廿日市市	三次市	東広島市	尾道市	江田島市	庄原市	安芸郡熊野町	山県郡北広島町
男	3	2	4	9	3	4	1	2	9	5	1	4	1	2	1	2	2	1
女	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	3	5	9	3	4	1	2	9	6	1	4	1	2	1	2	2	1

世羅郡世羅町	島根県松江市	島根県飯南町	山口県周南市	山口県岩国市	山口県下関市	長崎県長崎市	東京都渋谷区	計
1	2	1	1	2	1	1	1	66
0	0	0	0	0	0	0	0	4
1	2	1	1	2	1	1	1	70

【活動内容】

1 支援部

食事支援、入浴支援、排泄等の生活援助を通じて基本的な生活習慣の確立と情緒の安定を図った。

クラブ活動として毎月、書道、フラワー、グラウンド・ゴルフ、ボッチャなどを行った。日々の活動として月曜から金曜の午前中に、枝木の運搬・廃棄、椎茸ホダ木の移動や植菌、衣類・タオルたたみ、缶つぶし、薪の結束、箱詰め、木材のヤスリ掛けや磨き洗い、色塗り、種まき、移植、畑作り、収穫、水やり、草抜きなどを行った。

季節の行事、外出、レクリエーションとして、カフェの日、収穫祭、クリスマス会、年賀式、とんど、バスドライブ、日帰り旅行、カフェ外出、各グループの家族レクリエーションなどを行った。

個別支援会議の実施として、サービス管理責任者、支援課長、看護課長、栄養課長、相談支援専門員、家族、本人で構成し、年2回（6か月毎）開催した。

個別支援計画書を元にモニタリングを行い、利用者の現状について意見交換をし、取り組みの見直しや支援について協議した。家族が参加出来ない場合は、要望や意見を聞く事に努めた。可能な限り利用者も参加、要望をお聞きした。会議の経過及び結果は個別支援会議録を作成した。

2 看護課

利用者の健康状態を観察するため、起床時、13時、17時に検温を行い、全身状態を把握した。医師への報告や各医療機関への紹介を迅速に行うことで、受診の判断や引率、入退院の調整をスムーズに進めた。また、外傷や病気静養時の対応として、症状に応じて病院受診を判断し、看護ケアは医師の指示に基づき適切に実施した。

スキンケア、フットケアでは、利用者全員に保湿ローションやクリームを使用し、

入浴後のケアを行った。口腔ケアでは4～5月の歯科検診結果に基づき、緊急性が高い方を優先して受診調整を行い、定期的な口腔チェックや情報収集を継続した。

感染症予防としてインフルエンザワクチン接種を実施し、肝疾患や難病、がん疾患の利用者には定期的な体調管理や受診を支援した。また、ノロウイルスや疥癬症が発症した際は個室対応や清潔管理を徹底した。熱中症予防活動としてWBGTを活用した啓発活動を通じて、発症を防ぐことに成功した。

精神疾患や発達障害のある利用者については、定期受診や服薬調整を行い、適切な治療を支援した。医薬品や医療機器は安全管理を徹底し、マニュアルに基づき清潔に取り扱った。

3 栄養課

利用者に安全な食事を提供するため、衛生管理を徹底した。

旬の食材の利用や行事食を取り入れ季節感のある彩り、盛り付けに配慮したメニューを作成した。嗜好の把握や食事形態などを調整し、個々の嗜好や栄養状態、摂食状況にあった食事を提供した。

利用者全員を対象に継続して栄養ケアマネジメントを実施し、アセスメント、ケア計画書の作成・実行、3か月ごとの再スクリーニング、モニタリングを行った。

食事形態として、常食・ひと口刻み食・刻み食・ペースト食を利用者の状態に応じて提供した。療養食の提供として、糖尿病食・肝臓病食・脂質異常症食・痛風食・腎臓病食を利用者の病状に応じて、提供した。3月末現在、糖尿病食（1名）・肝臓病食（11名）・脂質異常症食（4名）・痛風食（2名）・腎臓病食（2名）であった。

【委員会】

1 虐待防止・身体拘束適正化委員会

虐待防止のための計画として、研修の実施、マニュアルやチェックリストの作成を行った。

チェックとモニタリングでは、虐待防止チェックリストの活用、個別支援体制の状況、発生した事故、苦情相談の内容、職員のストレスマネジメント状況を分析し、必要な対策を具体的に検討した。その結果を踏まえ、研修計画や職員による改善計画に反映し、虐待防止マネージャー（部課長）を中心とした実践的な取組を各部署で行った。万一、虐待や疑いが生じた場合は行政の事実確認に基づき、施設で事案を検証し再発防止策を検討・実行する体制を整えた。なお、本年度は該当事案はなかった。

身体拘束適正化に関しては、毎月1回の会議で代替手段の検討、職員の教育研修、本人の尊厳尊重、家族との連携、緊急時の対応基準の明確化を行い、拘束を必要としない支援を目指した。

2 危機管理委員会

危機管理体制の検討として、危機の発生を想定し、発生時の対応マニュアルの策定と見直し、予防体制の構築を行った。危機が発生した場合、利用者の安全を確保するための適正な応急措置へのマニュアル、迅速な対応と的確な対処に向けての検討と定期的な見直しを行った。

緊急時の対応方法の検討として、防災計画より自然災害、天変地異・火災・感染症等・不審者、侵入者、犯罪等について話し合った。危機に対する対応について種別に確認や検討を行うとともに、防災の取り組みや備え他について議題に取り上げた。業

務継続計画（BCP）発令訓練を行った。

3 衛生委員会

毎月1回、5名の委員で開催した。会議後は速やかに会議録をまとめ、全員に周知した。

健康障害の防止、健康の保持増進対策の検討として、定期健康診断やストレスチェックの実施を行った。また、ストレスチェックの結果に基づいた医師との個別面談を行った。

労働災害の原因及び再発防止対策の検討として、作業環境の見直し等を行った。

健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項の検討として、職場の環境改善と心理的負担軽減を目指す取り組み等を行った。

4 人権委員会

人権擁護の推進と啓発として、人権啓発ポスターを作成し掲示を行った。毎月、目標と具体的な事例を挙げて振り返りを行ってもらい意見として発信した。

人権侵害にならない言葉づかいを身につけ、対人援助技術の向上を目指すことを重点目標として掲げ全体で取り組むよう各部署へ発信した。

体罰を用いた処遇は行わないとして、繰り返し目標を発信し振り返ることによって人権意識の向上へ繋げた。

プライバシー保護への配慮をすることで、利用者の個人情報に厳密に取り扱い、関係者以外がアクセスできないようにした。

5 感染症対策委員会

感染症及び食中毒の予防として、手洗い、手指消毒を励行した。出勤時の体調チェックとして体温の計測、体調チェックリストへの記載を行った。

感染症発生時の対応として、毎朝各部署のリーダーとミーティングの時間を設け、タイムラグなく情報の共有を行った。手洗いや消毒の徹底、汚物の適切な処理など感染拡大防止に努めた。

感染症まん延防止対策として、マニュアルの見直しを随時行い、周知徹底に努めた。

6 サービス向上委員会

サービス向上の企画、検討、提案を目標とし、全職員対象にサービス自己評価チェックを実施した。サービスの向上に繋がる取り組みなどを随時、運営会議や支援部課長会議に提案を行った。